

祖山同志會設立趣意書

「行學ノ二道ヲ勵ミ候ヘシ行學絶

ヘナハ佛法アルベカラズ」

行學の二道は吾家發展の要素たり

祖山と宗門教學との關係は今更喋々を要せずと雖も宗祖が九ヶ年在山の御靈意を惟ふに單に自身老後の安逸を期するにあらず寧ろ靜寂閑散の處如說修行と同時に門葉教化鞠育に在りしや知るべし。

朝意傳三師が宗學的功績を始めとし善學鏡師の西谷の地に善學院を草創せる及び心性遠師の隱棲所を改易して學室の規模を置き天下負笈の遊子に親しく鞭策を與へし等己來吾が身延學園が西溪の地に幾久しきに亘つて春空爛熳不斷の學問的史華を事の寂光芬茶利の峰麓に競ひし事は今尙ほ世人の耳朶に遺る所ならん

春應阜師(明治廿五年御入山)の祖山大學院を創立せられ宗内の英戈を抜き自ら教鞭を執て育英に従

事せられてより去雁燕來星霜を累ぬる三十年凡そ現時宗内樞要の地位にあるものにして祖山の學窓に起臥せざりし者殆ど稀なりとす

而して大學院は閉鎖の悲運に遭ひ讒に小學林小檀林宗學林等の名を以て命脈を保持せるのみなりしが幸ひ復興の機運に遇ふて大正二年に至り呱呱の聲を擧げたるもの現在の祖山學院なりとす之れ大學院の復活にして小學林小檀林宗學林等の向上發展と云はざるべからず

時弊の推移する所幾多興亡變遷ありしと雖も祖山擁立の中心は更に異なるなし然るに歲月の久しき人員の多き一度學窓を出れば先進後輩の間風馬牛も管ならず若然らば先師が學園創設の意と祖山が多

年盡せし宗學的史華は共に日々萎微せんのみ豈に遺憾痛痕の極みならずや
是れ併しながら這般機關の缺乏其因をなすと云はざるを得ず宗祖棲神の法閣に學窓を同ふして蕭々たる夜雨を聞き俱に皎々たる秋月に坐して書味を談笑せし舊情を温め以て意志を疏通し精神を結合

し而して宗家の爲め祖山萬代不朽の基礎を確立せ
んには先輩諸師誘導の下同學後進提携し以て異体
同心協力一致にあらずんば能はざる所ならん是を
以て生等微力を顧みず身延出身者（大學院小學林小檀
林宗學林祖山學院
等に於て卒業と否とを問はず一度
祖山に笈を負ひしもの相集ふて）相互の親睦を厚ふし祖
山教學の振起を企圖し以て聖誕七百年を紀念せん
として本會設立を發起せしなり

大正拾年壹月 日

身延祖山學院内

祖山同志會發起者一同

先輩諸師、生等の哀情を酌量せられ御協讃願上
候會員名簿等の都合も有之候に付き賛否及住所
氏名至急御一報煩はしたく候

尙本會設立に對する希望及其他にも御高判を
仰ぎ度く此段貴意を得候也

發會式の時日等は追て發表可仕本會に對する
通信等は總て祖山學院宛に願上候

